

**越山若水**

2021.4.14

日本の子どもは身体には恵まれるが、精神的な幸福感を得ていない―ユニセフ(国連児童基金)が先進・新興国38カ国に住む子どもの幸福度を比べた調査から浮き彫

りになっている▼発表は2020年9月だったが、コロナ禍前のデータを用いたという。

総合ランキング1位はオランダ、日本は20位だった。日本の場合「身体的健康」では死亡率、肥満の割合が低く1位。半面「精神的な幸福度」のうち、15歳の幸福満足度では平均の76%を下回り62%。ワースト2位と全体順位を押し下げた▼「ベストとワーストの両面があり、逆説の日本」と言える状況」と教育評論家の尾木直樹さんは評する。一方で、子どもの数(15歳未満人口)となると総務省によれば、20年時点で約1512万人と39年連続の減少。総人口に占める割合も46年連続低下して12・0%。歯止めのかからない少子化を立証している▼そんな中、政府自民党から「こども庁」創設コールが起こっている。言い分はこうだ。子育てを担う施設の所管がばらばら。政策効果は把握しにくく、申請手続きも分かりづらい。一括所管して、行政の縦割りを打破する▼きのう自民党は「『こども・若者』輝く未来創造本部」を新設。早々と初会合が開かれた。子どもたちが心身ともに健康となる環境整備を念頭に議論を深めて、アドバランに終わらせないでほしい。